

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①子どもの実態を丁寧に見取り、各教科において、育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりをする。②自分の思いや考えを伝え合い、主体的に取り組むことができる課題設定、授業展開を工夫する。③朝の帯時間の15分間の充実・児童の実態を踏まえてより柔軟に取り組むことで、問題解決に必要な基礎学力の定着をめざす。	①重点授業研を通して、各教科の新学習指導要領や、カリキュラムマネジメントから、資質・能力について考えていくことができた。さらに共通理解していく必要がある。②自分の思いや考えを伝えるための手立てを考えた単元構成をすることで、より児童が主体的に学習に取り組むことができるようになってきている。	
豊かな心	①道徳教育と道徳の時間との関連を図り、年1回の授業公開を行い、家庭との共通理解を図る。②地域や保護者の協力をいただき、体験的な学習の充実を図るとともに、地域の一員であることに気付かせていく。③仲よし学年との交流を充実させ、異学年同士のつながりを築くようにする。	①道徳教育の教科により道徳の時間の充実は図ることができている。年1回の授業公開も行った。②本校の特色でもある地域とのつながりを大切に活動した活動を各学年行うことができた。また、感謝の気持ちをもつことのできる児童も増えてきている。③なかよし集会を中心に上の学年が計画・運営をすることで縦のつながりも強まっている。	
健やかな体	①体育や保健の見方・考え方を働かせ自身の課題を見付け、生涯にわたって心身の健康の保持増進し豊かなスポーツライフを実現するため資質・能力を育てる。②新体カテストの結果をもとに、児童主体の集会活動や体育的行事を計画し、年間を通じて継続して体力の向上に努める。③学校給食を通して、心身の成長や健康の保持	①児童一人ひとりが自分の力に合ったあてをもち、友達と教え合いながら運動を楽しむことができた。②「長縄集会」など児童主体の集会や体育的行事を行い、年間を通して体力の向上に努めることができた。③バイキング給食では、給食を材に、自ら食品を選択し、マナーを守って食事をすることや調理員に感謝	
人権教育	①自己肯定感を高めるための「楽しい授業」「わかる授業」づくりをする。②ふれあい活動の充実させ、自他の違いの認識および連帯と協調の態度を育てる。③横浜プログラム・YPを扱い、学級経営を高めていく。④各学年に応じた福祉授業を行い、6年間の系統性を図っていく。	①重点授業研を中心に児童の実態を踏まえた授業づくり取り組むことができた。②各学年で友達のことを意識した活動や自分が認められる喜びを感じることで活動を行っていている。③YPを取り、見方の研修をすることで学級経営を行うことができた。④各学年に応じた福祉授業を取り入れることができた。	
地域連携	①子ども達が地域と連携・協力して、意欲的、主体的に活動に参加していけるように実行委員会を設置し、互いの人間関係の深まりや協働する喜びを感じられるようにする。②「まちとともに歩む学校づくり懇話会」や行事ごとのアンケートなどを通して地域の意見を聞く機会を多く設け、連携を図る。	①体験学習や社会科などの教科の学習で、子ども達が主体となり田植えの仕方や防災について学ぶことができた。地域の方々の存在をより身近に感じることができた。②定期的に保護者や地域の方々にご意見をいただきながら、より良い学校運営や地域との連携の仕方について考えることができた。	
特別支援教育	学習活動や集団生活の中での困難を抱える児童に対して、職員全体でアセスメントをすすめ、保護者とともに支援の方向性を考えていく。個別の支援計画を活用しながら支援方法について考え、必要とされる個別の対応を行い、安心して学べる学習環境を学校全体でつくっていかけるようにする。	①引き続き専門機関やSC、SSWと教職員の連携を深め、支援の手立てについてスキルアップを図っていく。②指導計画を作成・活用しながら、特別支援教室など個別に適切な支援ができるようにする。③配慮が必要な児童に関する情報を6年間しっかり引き継げるように、データで管理・共有を行う。	
いじめへの対応	いじめ問題への対策を児童、教職員、保護者、地域、関係機関が主体的かつ相互的に協力しながら広く学校・地域全体で進め、いじめの防止及び解決を図る。「横浜子ども会議」等全校でいじめの未然防止を意識して活動することを通して、子どもの健全育成を図り、いじめのない学校の実現を目指す。	①生活アンケート及びいじめ解決アンケートなど児童への聞き取りや面談を通して、一人ひとりが安心して生活できるよう迅速に対応できるようにする。②児童の状況についての記録を作成するとともに、毎月行ういじめ防止対策委員会を有効に活用し、チームによる支援を進め、早期発	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下で構成されるメンターチームに主幹教諭やミドルリーダーが関わり、月1回の研修を通してスキルアップを図る。②学年主任会、いじめ防止対策委員会、運営委員会を同日に設定して情報共有をすることで、多くの職員で学校運営にかかわる意識を高める。③グループウェア活用による打合せ時間の削減や、過去データの整理、業務アシスタントの活用による業務効率化を図る。	①メンター研を定期的の実施し、学級経営や児童指導を中心に活発な意見交換をし、自身の活動の場に生かすことができた。②同日に連続して会議を行うことで効率的になり働き方改革につながった。また、同時に多くの職員で情報共有をはかることができた。③ペーパーレス化、打合せ回数の削減につなげることができた。	
ブロック内評価後の気付き	各校の学校教育目標の実現に向け、必要な資質・能力を共有した。年間3回行った合同研修では、小中一貫カリキュラムの作成に向け、各学校の実態について話し合いながら、単元配列表と各学校のカリキュラムを完成させることができた。次年度は、カリキュラムを見直ししながら、より実態に合ったものになるようにしていく。 中学校教諭による小学校での英語授業を行った。中学校での学習へのスムーズな移行に繋がる取り組みとなった。		
学校関係者評価	・朝、挨拶ができる児童が増えてきているが、自由な時間になると返事が返ってこないことがある。・子供会に参加する児童が減っており、地域の行事(連合球技大会・体育大会など)について、今後対策を考えなければならない。・防災教育の観点からも子どもと地域の人との顔が見える関係をいかにしていくかを考えていく必要がある。・学習の内容については引き続き学力の定着をはかっていってほしい。・ものを言える学校運営協議会にしてより良い学校にしていきたい。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力			
豊かな心			
健やかな体			
人権教育			
地域連携			
特別支援教育			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営(働き方改革)			
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力			
豊かな心			
健やかな体			
人権教育			
地域連携			
特別支援教育			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営(働き方改革)			
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	・年間の行事や生活科、総合的な学習などで地域との積極的な交流を通し、まちの中にある自分たちの存在に気づき、他者との良い関わりがもてるようになってきている。 ・校内重点研究では、新学習指導要領のねらいを意識しながら授業を行い、各領域で育成する資質能力についての理解を深めることができた。 ・併設型小中一貫校として、中学校英語教諭の乗り入れ授業をはじめ、部活動見学や中学生を招いての陸上競技の指導など、小中連携の新たな可能性を探ることができた。
------------	--

中期取組目標振り返り	
------------	--

中期取組目標振り返り	
------------	--